学校番号	1301

令和８年度　福祉科

教科	福祉	科目	生活とふくしⅠ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・コミュニケーション（手話・点字）に関する基礎的な知識と技術を習得する。
・高齢者や障がいのある人、認知症の人、その家族などとのコミュニケーション（手話・点字）方法を考え、それらを実践する

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
対人援助の基礎となるコミュニケーション（手話・点字）の技術について、基本的な知識と技術を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
倫理観をふまえ、コミュニケーション（手話・点字）について身につけた知識や技術を相手にあわせて創造的に活用し、課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、対人援助の基礎となるコミュニケーション（手話・点字）技術について主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	コミュニケーション（手話・点字）に関する基礎的な知識や技術を身につけ、コミュニケーション（手話・点字）の意義や役割を理解している。また、コミュニケーション（手話・点字）に関する諸活動にその技術を適切に活用している。	適切な人間関係を形成するためのコミュニケーション（手話・点字）の基礎について思考を深めている。基礎的な知識と技術をもとに、表現する創造的な能力を身につけている。	コミュニケーション（手話・点字）について関心をもち、学習や発表などに主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1～3	介護におけるコミュニケーション(手話・点字)	コミュニケーション(手話・点字) (手話・点字)の意義と役割 コミュニケーション(手話・点字)の基本技術 援助の技法とコミュニケーション(手話・点字)	a: コミュニケーション（手話・点字）に関する基礎的な技術を身につけるとともに、言語的・非言語的コミュニケーション（手話・点字）など基礎的な技法を適切に選択し活用している。 ・コミュニケーション（手話・点字）に関する基礎的な知識と技法を身につけ、コミュニケーション（手話・点字）の意義や役割、基礎について理解している。 b: コミュニケーション（手話・点字）に関する基礎的な内容について思考を深め、その基礎的な知識と技術をもとに適切に判断し、適切に表現している。 ・言語的・非言語的コミュニケーション（手話・点字）など基礎的な技法を通して意義や役割について思考を深め、適切に表現している。 c: コミュニケーション（手話・点字）について関心をもち、人間関係の形成について理解を深めようとしている。 ・言語的・非言語的コミュニケーション（手話・点字）など基本技術の意義や役割について関心をもとうとしている。	プリント	プリント グループワークや演習の様子	プリント グループワークや演習の態度や取り組み姿勢
	サービス利用者に応じたコミュニケーション(手話・点字)	・高齢者とのコミュニケーション(手話・点字) ・障がいのある人とのコミュニケーション(手話・点字) ・認知症の人とのコミュニケーション(手話・点字) ・サービス利用者の家族とのコミュニケーション(手話・点字)	a: １人ひとりの状態にあわせた適切なコミュニケーション（手話・点字）技術を身につける。また、指文字や手話、点字の基本的な知識を理解し、身につける。 b: １人ひとりの状態にあわせたコミュニケーション（手話・点字）について思考を深め、その基礎的な知識と技術をもとに適切に判断し、適切に表現している。 c: １人ひとりの状態にあわせたコミュニケーション（手話・点字）について関心をもち、適切な技法を用いて人間関係を形成し、深めようとしている。	プリント	プリント グループワークや演習の様子	プリント グループワークや演習の態度や取り組み姿勢

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度